



参考：国連開発計画（UNDP）「人間開発報告書2006」、ほか

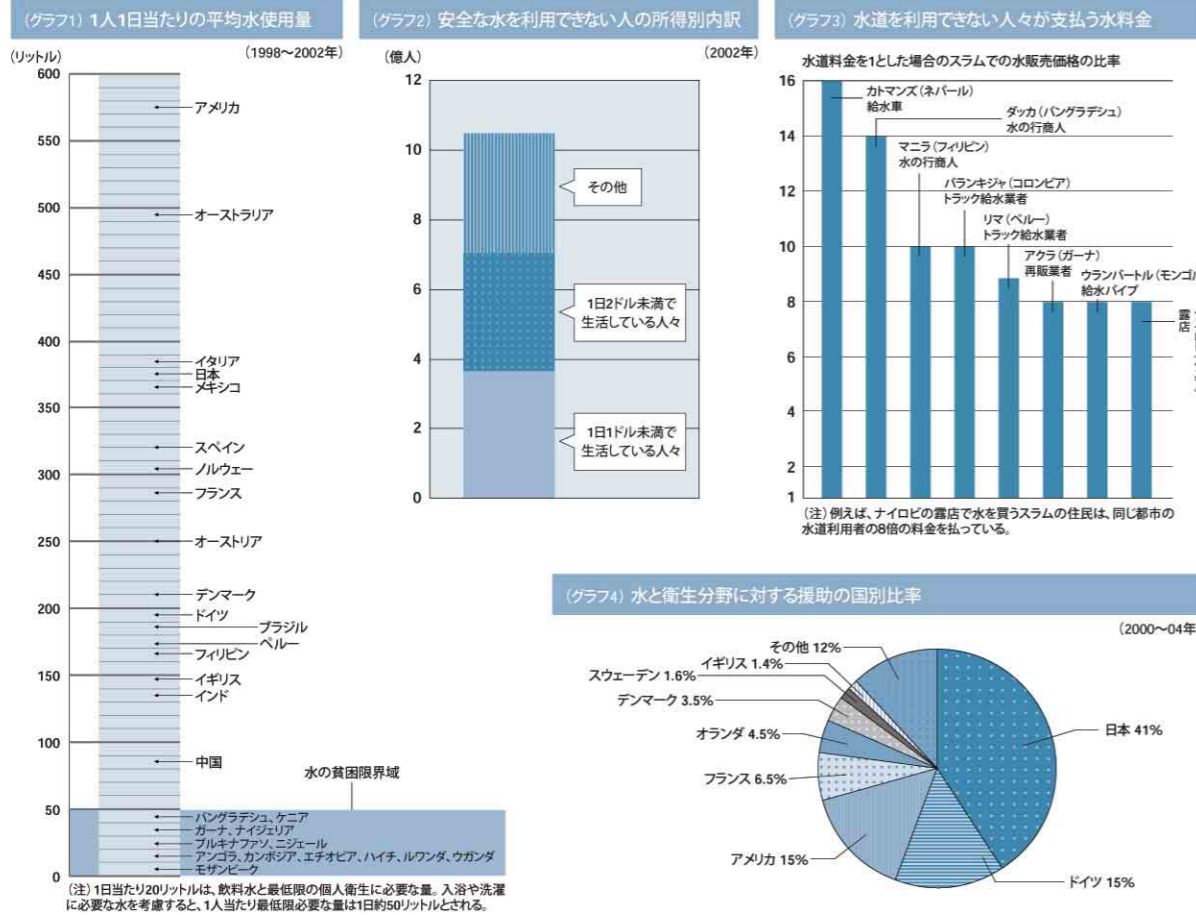
# 世界の水問題

23

## B 水をめぐる格差と国際協力

DATA

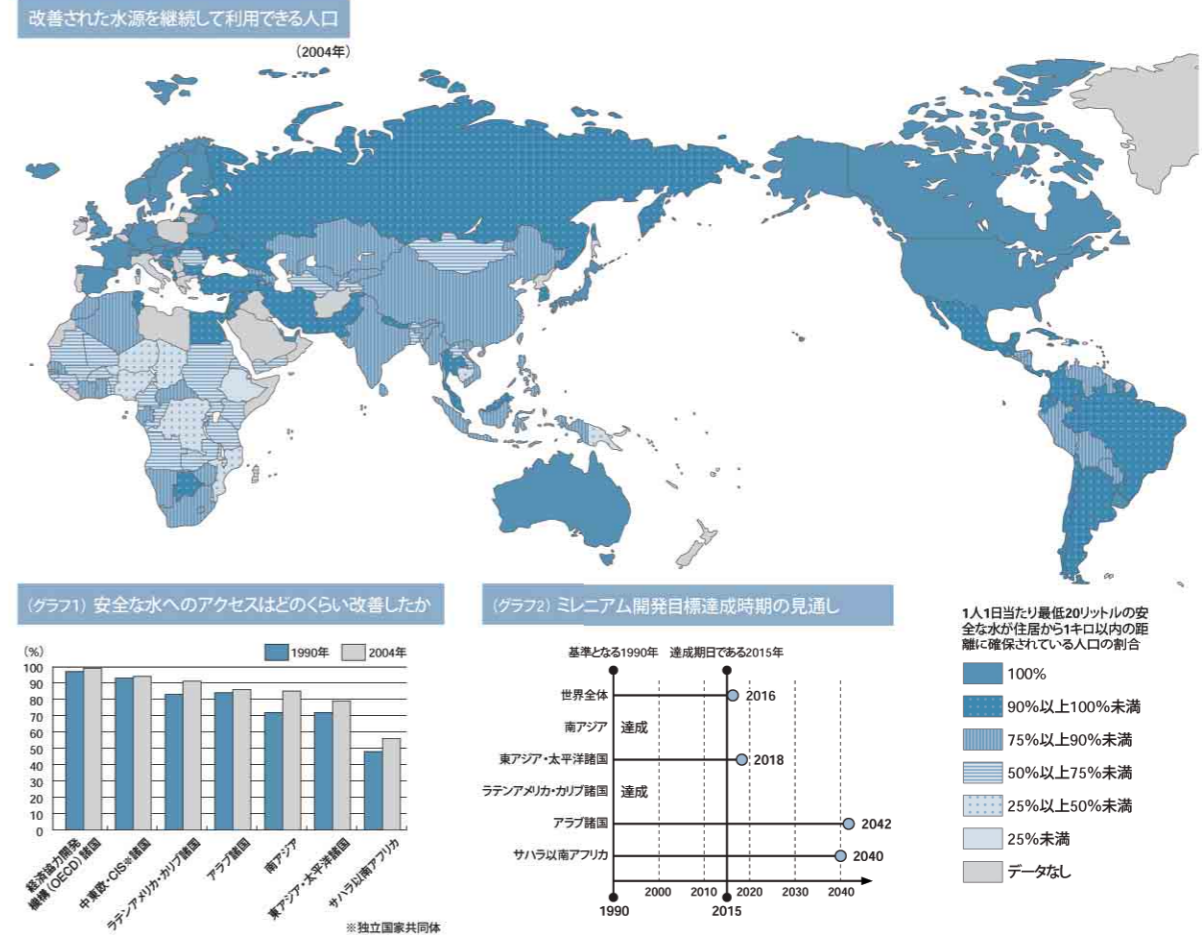
出典：UNDP「人間開発報告書2006」、外務省ウェブサイト (<http://www.mofa.go.jp>)



## A 安全な水へのアクセス

DATA

出典：国連開発計画（UNDP）「人間開発報告書2006」



### 貧しい人ほど高い水を買う

世界保健機関 (WHO) や国連児童基金 (UNICEF) などの機関では、家庭から1キロ以内にある水源から1人1日当たり20リットルの水を得ることが最低限必要だとしている。だが、水の使用量には大きな格差が存在する。水源から遠く離れた人は、最低限の量を大きく下回る5リットル未満の水しか得ていない場合が多い。しかもその水は安全ではない。

安全な水を利用できない人の約3分の2が1日2ドル未満で生活する貧困層だ。そしてその約半分の人々が1日

1ドル未満で生活している。貧しい人々の水使用量が少ないのは、重い水を長い距離運ばなくてはならないこと、水道への接続料金がなくて払えないことなどが挙げられる。そうした貧困世帯は露店や水の行商人などインフォーマル市場から高く安全ではない水を買わざるを得ない。

生命を維持する人権としての水が誰にでも確保されるよう、日本はこれまで大きな貢献をしてきた。MDGsを達成軌道に乗せるため、国際社会にはさらなる努力が求められている。

### このままではミレニアム開発目標達成に赤信号？

国際社会は、2000年に定めたミレニアム開発目標 (MDGs) のターゲット10「安全な飲み水を利用できない人々の割合を2015年までに (1990年よりも) 半減する」の達成に向けて努力してきた。だが、世界にはいまだに安全な水を利用できない人が約11億人もいる。水の使用量は過去50年で4倍に増えた。そして今後も増え続けると予測されている。各地域とも水へのアクセスは少しずつ改善しているものの、このままでは目標

達成は難しい。特にサハラ以南アフリカやアラブ諸国の予想される達成年ははるか先だ。たとえターゲット10が達成されたとしても、2015年時点で水が利用できない人が8億人もいることを忘れてはならない。

私たち日本人は「水と安全はタダだと思っている」と揶揄されるが、実は食料の輸入という形で間接的に大量の水を輸入している。その量は日本国内の水使用量の約3分の2に相当する。高い技術力で世界の水問題に協力することは、日本の責務の一つだろう。